

一橋大学陸上競技倶楽部理事会 議事録

日 時：平成 26 年 9 月 30 日（火） 18：30～21：10

場 所：如水会館 14F 梧桐

出席者：青木・池田・後藤・浜田・岩瀬・中村（龍）・若菜・伊丹・中村（英）
（コーチ）定成、石川、森田（議題 2 により、今回、コーチにも出席を依頼）

議題 1. 会費徴収について

1. 「如水会カード自動引落とし」手数料の消費税の取扱いが、今年度、内税扱いから本来の外税扱いになった。如水会事務局への支払手数料は 1.5%。（中村理事）

会費@10,000 円×1.5%=150 円×（1+消費税 8%）=162 円が今後の手数料。

2. H26 年 9 月末時点での徴収会費は 268 万円。（計画は、290 万円）

・5 年以上未納者も多い。また、年度幹事で未納者もいる。高齢者層は高徴収率だが、70 歳以上免除の影響も出て来よう。若手層への対策が従来からの課題。

・運動部 OB 連絡会でも話題になったが、各部共、頭を悩ましており妙案はないようだ。

3. 今年の未払会員 180 人に対して「再お願い」を出状する。会長名のメールでも並行して催促する。依頼文には、陸上部 HP アドレスを記載し、新グランド写真や OB 会・現役活動報告に誘導し、情に訴える。

議題 2. 現役強化策について

1. 青木会長から議題趣旨説明。

ハード（グランド、器具備品）は整備できた。次は学生強化が課題。個々人の能力は 100m10 秒台 4 名、400m50 秒切り 2 名とかあるが、全体としてはアンバランス。特にフィールド。対策は「マネージメント面」と「技術面」の両面必要。

「技術面」では浜田安則氏にコーチを委嘱し週 3 回位グランドに行ってもらっている。短距離は筑波大 OB 荒川氏が見てくれているが今年で一橋を離れる。投擲は松永 OB ルートで日大 OB 倉田氏にボランティアで依頼中。

「マネージメント面」では、今年から浜田理事に学生担当をやってもらい、ほぼ毎週（土）グランドに行ってもらっており感謝。いくつか課題（提案）があるが、今日は、

(1) 役員交代時期：就活早期化の影響で、自分たちの頃の 3 年から現在は 2 年秋になっているが、部の運営上（2 年が、上級生を統率）問題があるのではないか。

(2) 夏合宿の菅平：多くの団体が同時使用しており、短距離・投擲は満足な練習が出来てない（今年、浜田理事も合宿に視察・支援に行き、同様の意見）。場所の変更が必要。

について意見交換したい。

2. 意見の概要

(1) 役員 3 年交代案に、若手 OB は、慎重・現状維持、ベテラン OB は、積極的な意見。

(2) 既に、来年は予約済であるが、変更の可能性を探る。OB 会も場所選定に協力する。

3. 現役への対応

・9/30 理事会討議を踏まえ、10/4（土）国立で、現役と浜田理事の司会で意見交換をした。

OB 会：青木、池田、岩瀬、浜田、若菜

現役：三宅(前主将)、山上(主将)、澤武(副将)、風戸(次期主将)、松島(次期副将)

・現役：(1) は現状維持が大勢だが、他校・他部の状況も考え検討継続する。(2) は同意見。

理事会に於ける（１）についての主な意見。（順不同）

- ・主将を含めて、部をまとめリードして行く立場の役員が２年生というのは、組織運営上、無理があるのでは。大学生になって未だ１年半。上に先輩いて気兼ねもあろうし、逆に頼る気持ちも起こる。
- ・競技面でも成果発揮は最終学年時が多く、キャプテン等は最上級生がよい。４年の中には隠居の雰囲気のものもいる。
- ・一橋大運動部 37（8/25 如水会主催・体育会 OB/OG 連絡会の出席部）の内、２年生での役員就任は陸上部含め５のみ。他は全て３年生後半での就任。
- ・東大、神戸大も３年生で役員就任。理工系学生も多く就活実態の差は文科系とある。
- ・就活と部活動が本当に両立出来ない程の実態なのか。
- ・人によるが数十も企業訪問する場合は両立無理。役員を３年生時に戻したら競技面だけでなく事務処理面でも今以上に問題発生の公算。
- ・後から振り返ると、就活が「２年生→３年生」変更への阻害要因とは言えないが、学生当時は負担感は半端ではないはず。自分以外の部活ないゼミテンは全員就活中なのに・・・。
- ・学生には変ることへの不安感を除去してやった上で変更することが必要。
- ・OB会として就活相談に乗るから申し出るようと言われても、学生が年輩社会人OBに直接電話したり接触する心理的ハードルは相当高い。
- ・採用する企業側からすると、面接学生が体育会役員 in g 形の方が過去形よりは有効。
- ・早い段階で役員経験するのは本人の自覚・成長につながり、２年生時での就任は良い。
- ・上に先輩がいるためのやり難さは、年度毎に異なろうが、気になるのが普通。
- ・上に経験者がいることは、競技面、事務面両面とも、何かあれば教えてもらえる良さがある。
- ・OB会として押しつけるつもりは毛頭なく、問題提起し学生自身で考えてもらう方向。
- ・就活と部活／役員業務とのバランスの取り方を含め、学生生活をどう送るかは各部員が悩み・対処し・切り開いていくべき個人の問題。組織としての陸上競技部を強くすることは、その個人の問題とは別次元のことであり、組織としてはより優位事項のはず。
- ・陸上部の現役の現状は、部組織の問題の存在を認識・自覚せず部活していることが問題。個人競技／チーム競技の要因だけではなさそう。個々人の判断能力は高い部員いる。
- ・フィールド強化策を現役が各自で真剣に考え、部として論議して欲しい。
- ・女子マネージャーの在り方・役割も課題。女子マネは人数に年度変動大を前提に議論を。
- ・「マネジメント面」の諸課題は、学生側とも十分話し合いながら取り組んで行く。

以上